

## ISOM'14 報告



ISOM (International Symposium on Optical Memory) は 1985 年にスタートした SOM (Symposium on Optical Memory) を母体に 1987 年から継続的に開催されている光メモリ技術に関する国際学会であり、今年 (2014 年) は 10 月 20 日 (月) ~23 日 (木) の会期で、台湾・新竹市郊外の煙波大飯店 (Lakeshore Hotel Hsinchu)において開催された。

光協会は ISOM スタート時からのスポンサーであり、今年も日本側スポンサーを代表して光協会から小谷専務理事以下関係者が出席した。

ISOM における研究発表分野は、光メモリシステムの設計とアプリケーションの最新動向に加え、メディア、レーザ、光システム、コンピュータシミュレーションを含む基礎理論、および光メモリシステムと最近特に注目されている記録保管システムに関する広範な将来技術の領域を含んでいる。

さらに ISOM'14においては、4 つのスペシャルセッション ("Nano photonics1&2", "Taiwan Special", "Optical/Photonic Interconnect") が開催され、各分野の研究者から最新の研究成果が紹介された。

今回の ISOM'14 の参加者数は 173 名にのぼり、開催国の台湾と日本、さらに韓国、中国、米国、欧州に加えてオーストラリアからも参加があり、3 年続けて前年の参加者数を上回る盛況だった。

ISOM'14 国別参加者数

日本	台湾	韓国	中国	米国	その他	合計
80	70	13	5	2	3	173

応募論文件数は 85 件と前年の 63 件から大幅に増加し、日本、台湾に加え韓国、米国、欧州等から幅広い応募があった。招待講演、ポストデッドラインペーパーを含めた 49 件について 14 のセッションで口頭発表が、54 件についてポスターセッションが行われ、活発な討議が繰り広げられた。

ISOM'14 国別応募論文件数

日本	台湾	韓国	米国	その他	合計
36	30	10	5	4	85

今後も ISOM は、光メモリ技術をコアとしながらも関連する幅広い技術領域における最新の研究成果発表、技術交流の場として、技術・研究の発展に貢献していくことが期待されている。次回の [ISOM'15](#) は、富山市の富山国際会議場において 2015 年 10 月 4 日（日）～7 日（水）の会期で開催されることが決定した。

また、本年 12 月 18 日（木）には、東京大学・生産技術研究所において受賞論文を中心に ISOM'14 の成果を紹介する国内講演会（[ISOM'14 Workshop](#)）の開催が予定されている。



会場となった煙波大飯店（Lakeshore Hotel Hsinchu）



ISOM'14 参加者集合写真